

資格検定 News Letter

2022, AUGUST Vol.07

共通だが差異ある責任 Common but differentiated responsibility,

「地球温暖化の阻止に取り組む責任はすべての国にあるが、その責任の重さは国によって差がある」という考え方。

先進国と途上国では、これまで環境に負荷をかけて快適さを享受してきた先進国により重い責任が課され、より厳しい温室効果ガスの削減目標の設定や、途上国に対する資金援助・技術支援などが求められた。



環境保全 何を目指すのか

「我々は先祖から土地を受け継ぐのではない。子どもたちから土地を借りるのだ」
北米先住民の言い伝え。

今生きている『我々』が困らなければ良いのではない。

未来の子供達が、今、我々がしている事、
した事を判断するのだ。

朝日新聞 2022年8月 記事から



私たちは未来を植民地化してきたのだ。

『グッド・アンセスター』（（ローマン・クルツナリック）紹圭訳）から。現代人は「現時制の中毒」に罹っている。

直近の利害に目を奪われ、自分らが未来世代の生きる環境を先に篡奪していることの自覚がない。人類の生存は今、長期的な展望の中で取り組めるかどうかにかかっているのに、その時間感覚は「数秒、数時間、数日という狭い範囲へと急速に縮小している」。

朝日新聞2022年8月記事から

